

課題番号	LZ002
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成23年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	ネットいじめ研究の新展開-「行動する傍観者」を生み出すプログラム-
研究機関・ 部局・職名	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授
氏名	鈴木 佳苗

1. 当該年度の研究目的

本研究では、ネットいじめの対人相互作用過程を再現するインタラクティブ・ソフトウェア (IS) を開発し、青少年がこの IS を利用してネットいじめの被害の発生と拡大にかかわるさまざまな行動選択とその結果を経験することによって、ネットいじめに対する認識や態度を変えていくことを目指している。

本研究全体の具体的な目的は、主に以下の3点である。

(1) ネットいじめの生起状況や対策の網羅的な情報収集と整理を行う。

(2) ネットいじめの「行動する傍観者」の行動によってネットいじめ状況が変化する対人相互作用過程を再現するインタラクティブ・ソフトウェア (IS) を開発する。

(3)(2)の IS を組み込んだ新しい教育プログラムの提案とその効果の検討を行う。

平成23年度には、目的(1)に対して、ネットいじめおよびいじめの生起状況の検討 (モバイル調査)、高校生世代のネットいじめおよびいじめに関するエピソードの収集 (文献調査、インタビュー調査)、教育プログラムや教材の収集 (文献調査、訪問調査) を行い、目的(2)に対してこれらの調査の結果に基づいて IS の教育目標の設定とシナリオ案 (第一案) の作成と、その評価を行う。

2. 研究の実施状況

上記の目的(1)および目的(2)に対して、それぞれ以下の調査を行った。

○目的1に対する調査

1. ネットいじめおよびいじめの生起状況に関する質的研究

IS のシナリオ開発に向けて、高校生世代のネットいじめおよびいじめの具体的なエピソードを収集するために、以下の2つ質的調査を実施した。

1-1. 文献調査

国内のネットいじめおよびいじめの事例に関する資料を収集し、ネットいじめやいじめが生起する具体的な状況やその後の周囲の人からの対応等についての情報を分類し、その特徴を整理した。

1-2. インタビュー調査

様式19 別紙1

ネット上での対人関係のトラブル経験のある高校生・大学生をスクリーニングし、ネットいじめの具体的なエピソードと周囲の人からの有効な対応についての情報を収集した。

2. ネットいじめおよびいじめの生起状況に関する量的研究

ISのシナリオ開発に向けて、高校生世代がネットいじめおよびいじめに対して取るさまざまな行動の生起状況とその行動によるネットいじめおよびいじめの状況の変化等についての実態を把握するために、以下の2つの量的調査を実施した。

2-1. ネットいじめの加害者を対象とした調査

高校生の調査モニターの中で、最近1か月間にネットいじめの経験のある者を対象として、多く生起するネットいじめ行動やネットいじめ行動の理由等について尋ねるモバイル調査を実施した。

2-2. ネットいじめの目撃者を対象とした調査

高校生の調査モニターの中で、最近1年間にネットいじめを目撃した経験のある者を対象として、ネットいじめを目撃した際に取った行動（介入行動、傍観行動、加害行動などを含み、以下「役割行動」を記す）について尋ねるモバイル調査を実施した。この調査では、役割行動を調べることにより、ネットいじめの傍観者をはじめ、介入者、加害者のネットいじめの役割行動の状況を検討した。さらに、ネットいじめの目撃者の中で加害経験のある者の情報モラルや、被害経験のある者が期待する介入行動等についても尋ねた。

3. 教育プログラムや教材の収集

3-1. 文献調査

国内のネットいじめおよびいじめの事例に関する資料を収集し、ネットいじめやいじめが生起する具体的な状況やその後の周囲の対応等についての情報を分類し、その特徴を整理した。

また、国内外のネットいじめおよびいじめの予防・低減に関する教育プログラムの情報を収集するとともに、欧米、アジアのネットいじめおよびいじめのゲーム教材を収集し、その特徴を整理した。

3-2. 訪問調査

英国のネットいじめおよびいじめの教育プログラムについて、英国の研究者と実践家にインタビュー調査を実施した。

○目的2に対する調査

1. ISの教育目標の設定とシナリオ案の作成

上記の調査の結果に基づいて、ISの教育目標の設定とシナリオ案（第一案）の作成を行った。

2. ISの骨子の評価

高等学校の5校の情報教育にかかわっている教員を対象として、ISの骨子についてのグループインタビュー調査を行った。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

<p>雑誌論文</p> <p>計 1 件</p>	<p>(印刷中－査読有り) 計 1 件</p> <p>Suzuki, K., Kashibuchi, M., Yamaki, R., Kumazaki, A., Horiuchi, Y., & Inomata, F. (2012). Use of gaming simulation for cyber-bullying prevention. シミュレーション&ゲーミング(英文特集号 Social contribution of simulation & gaming in various gaming cultures of the world).</p>
<p>会議発表</p> <p>計 13 件</p>	<p>専門家向け 計 13 件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Suzuki, K., Kumazaki, A., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2011). Effects of mobile Internet usage on cyber- and school-bullying experiences: A two-wave panel study of Japanese elementary, secondary, and high school students. 2011. Paper presented at the 3rd Global Conference Bullying and the Abuse of Power, Prague, Czech Republic (Full Paper). 2) Kumazaki, A., Suzuki, K., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2011). Netiquettes moderating the effect of Internet use on cyber-bullying: The two-wave panel study of Japanese elementary, secondary, and high school students. Paper presented at the 3rd Global Conference Bullying and the Abuse of Power (Prague, Czech Republic (Full Paper). 3) Kumazaki, A., Suzuki, K., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2011). The Effects of Netiquette and ICT Skills on School-bullying and Cyber-bullying: The Two-wave Panel Study of Japanese Elementary, Secondary, and High School Students. <i>Procedia-Social and Behavioral Sciences</i>, 29, 735-741. 4) Suzuki, K., Kumazaki, A., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2012). Gender differences in bullying experiences among Japanese students. Paper presented at the 10th Annual Hawaii International Conference on Education, Honolulu, Hawaii, USA. 5) 鈴木佳苗・熊崎(山岡)あゆち・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2012). 子どものインターネット利用といじめ(7)－家庭でのパソコンの新規取得が高校生のネット上の加害経験に及ぼす影響－日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集, 673. 6) 樫淵めぐみ・鈴木佳苗・熊崎(山岡)あゆち・堀内由樹子・坂元章・桂(赤坂)瑠以(2012). ネットいじめの加害者経験者におけるネット利用の影響(1)－ネットいじめ加害行動の経験率と停止要因の単純集計－日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集, 335. 7) 堀内由樹子・鈴木佳苗・熊崎あゆち・樫淵めぐみ・坂元章・桂(赤坂)瑠以(2012). ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(2)－ICT スキル、情報モラルとネット知識の単純集計－日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集, 336. 8) 熊崎(山岡)あゆち・鈴木佳苗・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2012). 子どものインターネット利用といじめ(8)－ICT スキルと情報モラルがネット及び学校でのいじめ加害経験に与える 1 年後の影響について－日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集, 674. 9) 鈴木佳苗・熊崎(山岡)あゆち・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2011). 日本におけるネットいじめの現状と対策(1)－小学生・中学生・高校生を対象とした加害行動の実態調査－日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集, 445-446. 10) 熊崎(山岡)あゆち・鈴木佳苗・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2011). 子ども達のネット利用に関する担任教員による指導－単純集計－日本教育心理学会第 53 回大会発表論文集, 468. 11) 鈴木佳苗・熊崎(山岡あゆち)・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2011). 子どものインターネット利用といじめ(3)－2 波パネル調査による携帯電話利用とネットおよび学校での加害経験の因果関係の検討－日本心理

様式19 別紙1

	<p>学会第75回大会発表論文集, 1120.</p> <p>12) 熊崎(山岡)あゆち・鈴木佳苗・桂(赤坂)瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2011). 子どものインターネット利用といじめ(4)－ICTスキルと情報モラルがネット利用及び学校でのいじめの加害経験に与える影響－ 日本心理学会第75回大会発表論文集, 1121.</p> <p>13) 熊崎あゆち・鈴木佳苗・桂瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2011). 子どものインターネット利用といじめ(6)－携帯電話利用がネットいじめの加害経験に与える影響を調整する情報モラルの効果－ 日本社会心理学会第52回大会発表論文集, 160.</p> <p>一般向け 計0件</p>
図書 計0件	
産業財産権 出願・取得状況 計0件	<p>(取得済み) 計0件</p> <p>(出願中) 計0件</p>
Webページ (URL)	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ppab/
国民との科学・技術対話 の実施状況	
新聞・一般雑誌等掲載 計0件	
その他	

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成23年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	77,000,000	19,325,000	1,508,000	56,167,000	
間接経費	23,100,000	5,797,500	452,400	16,850,100	
合計	100,100,000	25,122,500	1,960,400	73,017,100	0

2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	19,088,952	1,508,000		20,596,952	20,431,094	165,858	
間接経費	5,726,686	452,400		6,179,086	6,129,328	49,758	
合計	24,815,638	1,960,400	0	26,776,038	26,560,422	215,616	0

3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	2,859,358	図書資料、教材、分析ソフト、パソコン等の導入
旅費	3,034,839	研究成果発表旅費、訪問調査旅費
謝金・人件費等	10,443,615	研究員人件費、助言謝金
その他	4,093,282	学会参加費、モバイル調査委託費、複写費
直接経費計	20,431,094	
間接経費計	6,129,328	
合計	26,560,422	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		